

2026年度松溪会事業計画

人口減少による少子化は地域の人口縮小の課題として深刻さを増し、保育事業においても出生数の減少による保育人数構成の変化、慢性的な人材不足は加速している。保育事業は「量から質へ」の転換が改めて謳われ様々な制度政策が講じられたが、公定価格の見直し等は職員処遇に特化しており保育事業の多機能化や機能強化には言及していない。それでも、地域需要の変化は重要な取り組みであることを踏まえ、「保育の質」「保育を支える環境の質」「保育を支える職員体制の充実」をあわせて追求していく必要があり、これに取り組みたい。おかさきこども園、市野与進こども園で取り組んで来た子どもの生きる力や多様性を育む保育をより活かすために、次の時代変化に対応した見直しと点検を行い、次のステージに向かう力を養うことが2026年度の取り組みである。

【2026 年度事業目標】

次の時代変化に対応していくための「見直し」と「点検」を行う

組織、管理体制の見直し

保育の本質を職員と共に考えて見直しと点検

保育環境の見直しと点検

職員の働くことへの見直しと点検

(重点事項)

1. 選ばれる児童施設になるための組織管理体制に取り組む
2. 中途採用の職員に対しての職員研修等による人材育成に取り組む
3. 保育目標の見直しを進め、日々の保育、保育環境の見直しを進める
4. 保育士ラダーに基づく評価に基づく処遇改善の実施と目標管理面接の実施
5. 児童発達支援への取り組みを継続し、児童発達支援の取り組みを進める
6. 働き難さに対する職場環境、人間関係への関心を高め、働き易さを追求する
7. 専門職として職員育成の充実に取り組む

【職員育成ビジョン】

「子ども達の未来のために、職員が成長しようとする意欲を支える」

職員が安心して一人ひとりの子供たちに向き合うことができるために、保育現場で取り組む仕事、保育環境の一つ一つを見直すことを通して、法人における事業の総点検を行う年度としたい。特に安全性については、職員の安心感を伴うものとせねばならない。そして、児童、保護者の視点に加えて事業における安全性の確保は急務であるとする。

経営面においては、一昨年末、保育の公定価格の見直しが行われ、公定価格 10.7%が上昇し、これは職員給与に使用されることが示されこれを行ったことに加えて 2025 年度においても 5.3%の公定価格が上昇した。2026 年度も同様の傾向が予測され、法人はこれに対しても指導を遵守し、誠実に向けあう事としたい。職員の生活を守るために保育職の給与が補償され、そして働き易さを支えられていることを受け止め、今後の動きは留意をしていきたい。そしてこの動きは医療、介護、障害にも及び改定が示された。政府が繰り出す様々な支援策は職員の生活の保障に目を向けた取り組みであることには違いない。これらの動きに支えられて保育現場においても安心して働き続けられる取り組みを継続していきたい。保育事業で働くと言う職員の喜びにつなげたい。しかし、経営面において浜松市の管轄下にある市野与進保育園と湖西市にある岡崎こども園では、職員確保、待機児童状況、障害児等の認定の仕組み、各種加算に対して、大きな差があり経営面では 2 極化がさらに進むこととなっている。

また、育児休業法の改正に伴い、小学校までの時間短縮勤務を行う職員が増加したことを受け、早番遅番休日勤務等に対する職員確保の観点から職員数の増加に踏み切り、日々の保育における安全が確保できるための職員体制を整備した。職員採用においては、中高年の保育士採用を行い、これを支える人材として位置づけた、このような動きから保育感が異なる人材を受け入れることで施設、法人においては、その事業理念、保育理念の浸透には十分な教育と研修等の機会による取り組みを行う必要がある。

経済財政諮問会議で示される社会保障の工程表のうち、保育に対する 2028 年以降の工程表が明確には示されていない。保育施設過多となり地域の児童数が減少する中で、地域に必要な施設となり続けるために、変わる事のない保育の本質に支えられた保育事業の取り組みを行っていきたいと考える。「新しい時代に生きる子供たちの生きる力を育てていく」ことを保育の理念とし、日々の取り組みの中で、ひとり一人の子供たちに対する保育の力を高めていく取り組みを行うことにより、地域で生き残り地域に必要とされる施設となることを目指していく。